

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2015-174661

(P2015-174661A)

(43) 公開日 平成27年10月5日(2015.10.5)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
B 6 5 D 5/24 (2006.01)	B 6 5 D 5/24 E	3 E 0 6 0
B 6 5 D 5/44 (2006.01)	B 6 5 D 5/44 F	
	B 6 5 D 5/24 C	

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願2014-49965 (P2014-49965)	(71) 出願人	000115980
(22) 出願日	平成26年3月13日 (2014. 3. 13)		レンゴー株式会社
			大阪府大阪市福島区大開4丁目1番186号
		(74) 代理人	100130513
			弁理士 鎌田 直也
		(74) 代理人	100074206
			弁理士 鎌田 文二
		(74) 代理人	100130177
			弁理士 中谷 弥一郎
		(74) 代理人	100117400
			弁理士 北川 政徳
		(74) 代理人	100151024
			弁理士 前田 幸嗣

最終頁に続く

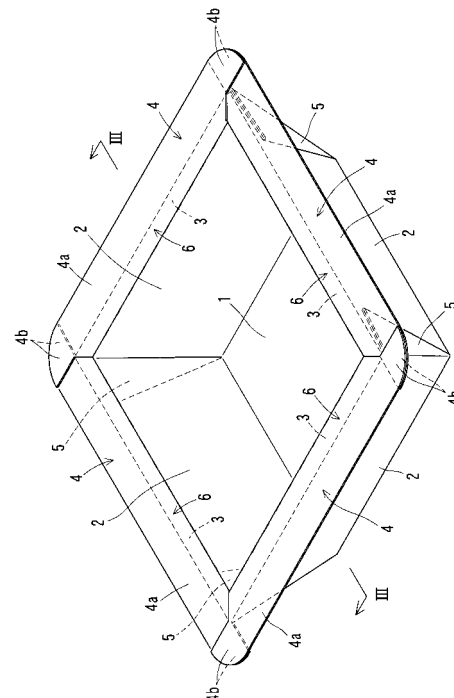
(54) 【発明の名称】紙製トレイ

(57) 【要約】

【課題】内容物がこぼれ出しにくく、剛性に優れ、蓋を嵌合させて係止できる紙製トレイを提供する。

【解決手段】底板1の周囲各辺に側板2を連設し、側板2の上端となる端辺に内折片3及び外折片4を順次連設し、底板1から側板2を起立させて、その起立状態を維持し、側板2から内折片3を内側へ折り曲げ、内折片3から外折片4を上方外側へ折り返して、重なり合った内折片3と外折片4とが側板2の上端から内側へ迫り出す積層内鏝部6を形成する。積層内鏝部6により、内容物のこぼれ出しを防止できると共に、剛性が高くなって形状が安定したものとなり、重量のある内容物の収納にも対応できるほか、側板2の上端より外側へ迫り出した外折片4の外鏝部4aに蓋を嵌合させて係止することもできる。

【選択図】図2



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

底板(1)の周囲各辺に側板(2)を連設し、側板(2)の上端となる端辺に内折片(3)及び外折片(4)を順次連設し、底板(1)から側板(2)を起立させて、その起立状態を維持し、側板(2)から内折片(3)を内側へ折り曲げ、内折片(3)から外折片(4)を上方外側へ折り返して、重なり合った内折片(3)と外折片(4)とが側板(2)の上端から内側へ迫り出す積層内鏝部(6)を形成するようにした紙製トレイ。

【請求項 2】

前記側板(2)に連なる外折片(4)に、側板(2)の上端より外側へ迫り出す外鏝部(4a)を設けたことを特徴とする請求項 1 に記載の紙製トレイ。

10

【請求項 3】

前記外折片(4)の外鏝部(4a)の両側に、側板(2)の上端より側方へ延びる延長部(4b)を設け、隣り合う外折片(4)の延長部(4b)同士を重ねて貼り合わせたことを特徴とする請求項 2 に記載の紙製トレイ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

この発明は、惣菜や生菓子等の食品の収納に適した紙製トレイに関するものである。

【背景技術】

【0002】

20

従来、下記特許文献 1 には、図 6 に示すように、底板 5 1 の周囲に連設した各一对の側板 5 2, 5 3 を起立させ、隣り合う側板 5 2, 5 3 同士を繋ぐ連結片 5 4 を一方の側板 5 2 から他方の側板 5 3 の外面に折り重ねて貼り付け、側板 5 2, 5 3 の起立状態を維持する紙製トレイにおいて、側板 5 2, 5 3 の上端に内折片 5 5 を連設し、側板 5 2, 5 3 から内折片 5 5 を内側へ折り曲げたものが記載されている。

【0003】

このような紙製トレイでは、内容物の収納後、樹脂フィルムによりタイトラップ包装を施す際、内折片 5 5 が樹脂フィルムの巻付力に対抗するので、変形が防止され、また、内折片 5 5 により、トレイを傾けたとき等における内容物のこぼれ出しも防止される。

【先行技術文献】

30

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】特許第 4 7 7 5 0 8 5 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、上記のような紙製トレイでは、内容物が重いものである場合、内折片 5 5 による補強効果が十分でなく、変形することがあった。

【0006】

また、外周に鏝状の部分がなく、プラスチック成型品等の蓋を嵌合させる場合、不意に外れないように係止することができないという問題もあった。

40

【0007】

そこで、この発明は、内容物がこぼれ出しにくく、剛性に優れ、蓋を嵌合させて係止できる紙製トレイを提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【0008】

上記のような課題を解決するため、この発明に係る紙製トレイは、底板の周囲各辺に側板を連設し、側板の上端となる端辺に内折片及び外折片を順次連設し、底板から側板を起立させて、その起立状態を維持し、側板から内折片を内側へ折り曲げ、内折片から外折片を上方外側へ折り返して、重なり合った内折片と外折片とが側板の上端から内側へ迫り出

50

す積層内鏝部を形成するようにしたのである。

【0009】

また、嵌合させた蓋の係止等を可能とするため、前記側板に連なる外折片に、側板の上端より外側へ迫り出す外鏝部を設けたのである。

【0010】

さらに、剛性向上のため、前記外折片の外鏝部の両側に、側板の上端より側方へ延びる延長部を設け、隣り合う外折片の延長部同士を重ねて貼り合わせたのである。

【発明の効果】

【0011】

この紙製トレイでは、内折片と外折片とが重なり合って側板の上端から内側へ迫り出す積層内鏝部により、内容物のこぼれ出しを防止できると共に、剛性が高くなって形状が安定したものとなり、重量のある内容物の収納にも対応できるほか、側板の上端より外側へ迫り出した外折片の外鏝部に蓋を嵌合させて係止することもできる。

【図面の簡単な説明】

【0012】

【図1】 この発明の第1実施形態に係る紙製トレイのブランクを示す図

【図2】 同上の組立状態を示す斜視図

【図3】 図2のIII-III線における断面図

【図4】 この発明の第2実施形態に係る紙製トレイのブランクを示す図

【図5】 同上の組立状態を示す斜視図

【図6】 従来の紙製トレイの組立状態を示す斜視図

【発明を実施するための形態】

【0013】

まず、この発明の第1実施形態を図1～図3に基づいて説明する。

【0014】

このトレイは、図1に示すような板紙製のブランクから組み立てられる。このブランクでは、正形状の底板1の周囲各辺に、組立状態で上広がりとなる逆台形状の側板2が折目線を介して連設され、側板2の上端となる端辺に内折片3及び外折片4が折目線を介して順次連設されている。隣り合う側板2同士は、三角形形状の連結片5により連結され、連結片5には、底板1の角と向き合う角を二等分する折目線が入れられている。

【0015】

内折片3と外折片4の境界の折目線は、側板2と内折片3の境界の折目線に沿った折り曲げとは逆方向の谷折りが可能となるように、押野と切目とが交互に断続するリード野とされている。

【0016】

外折片4は、内折片3よりも連設方向の寸法が大きく、組立時に内折片3と重なる外折片4の内側部分は、内折片3と共に積層内鏝部6とされ、外折片4の積層内鏝部6となる部分より外側が外鏝部4aとされている。外折片4における外鏝部4aの両側には、側板2の上端となる端辺より側方へ延びる延長部4bが設けられている。

【0017】

積層内鏝部6の両側縁は、組立時に隣り合う積層内鏝部6との干渉を回避するため、内折片3と外折片4の境界へかけて谷となるように斜め45°に切断されている。

【0018】

このようなブランクからトレイを組み立てる際には、図2及び図3に示すように、底板1から側板2を起立させ、連結片5を二つ折りにしつつ、隣り合う側板2の一方から他方へ折り曲げて、他方の側板2の外面に貼り付ける。

【0019】

そして、側板2から内折片3を内側へ折り曲げ、内折片3から外折片4を上方外側へ折り返して、重なり合った内折片3と外折片4により、側板2の上端から内側へ迫り出す積層内鏝部6を形成すると共に、外鏝部4aが側板2の上端より外側へ迫り出すようにし、

10

20

30

40

50

隣り合う外折片 4 の延長部 4 b 同士を重ねて貼り合わせる。

【0020】

上記紙製トレイでは、内折片 3 と外折片 4 とが重なり合って側板 2 の上端から内側へ迫り出す積層内鏝部 6 により、トレイを傾けたときや内容物をスプーンで掬い出す際の内容物のこぼれ出しを防止できると共に、剛性が高くなって形状が安定したものとなり、重量のある内容物の収納にも対応できるようになる。

【0021】

例えば、内容物をスプーンで掬い出す際、従来の紙製トレイのように、側板の上端から単に内折片を折り曲げるものに比べて、側板 2 の内面側からスプーンで外側へ押された場合の変形に対する抵抗力が大きくなり、側板 2 が外側へ逃げるように変形しないので、スプーンでの内容物の掬い出しが容易になる。

10

【0022】

さらに、隣り合う外折片 4 の延長部 4 b 同士を重ねて貼り合わせているので、外折片 4 の周方向角部における角度が固定され、外折片 4 が周方向に一体化されて、剛性が一層向上し、スプーンで内容物を掬い出す際、内容物の溢れを確実に防止することができる。

【0023】

また、外折片 4 に側板 2 の上端より外側へ迫り出す外鏝部 4 a を設けているので、外鏝部 4 a にプラスチック成型品等の蓋を嵌合させて、不意に外れないように係止し、密閉性の高い包装とすることもできる。

【0024】

そのほか、材料にラミネート紙を使用して、ラミネート面が内容物の収納空間の内面となるようにした場合、外折片 4 においてラミネート面が上面となるので、ラミネートした樹脂の熱溶着性を利用し、樹脂フィルムを被せてシールすることもできる。

20

【0025】

なお、上記実施形態では、全ての側板 2 に積層内鏝部 6 を形成したものを例示したが、内容物や使用状況に応じて、少なくとも 1 枚の側板 2 に内折片 3 及び外折片 4 を順次連設し、積層内鏝部 6 を形成すればよい。

【0026】

例えば、図 4 及び図 5 に示す第 2 実施形態のように、一組の対向する側板 2 にのみ積層内鏝部 6 を形成するようにして、他の側板 2 には、内折片 3 を介することなく、外鏝部 4 a をなす外折片 4 を直接連設するようにしてもよい。

30

【0027】

また、蓋を嵌合させる必要がない場合には、外折片 4 の外鏝部 4 a 及び延長部 4 b を省略してもよい。この場合、外折片 4 の両側縁を斜め 45° に切断することなく、隣り合う外折片 4 の両側部同士を貼り合わせるようにするとよい。

【0028】

また、底板 1 が正形状のもの为例示したが、底板 1 は、長方形のほか、三角形や六角形等、他の多角形状であってもよい。

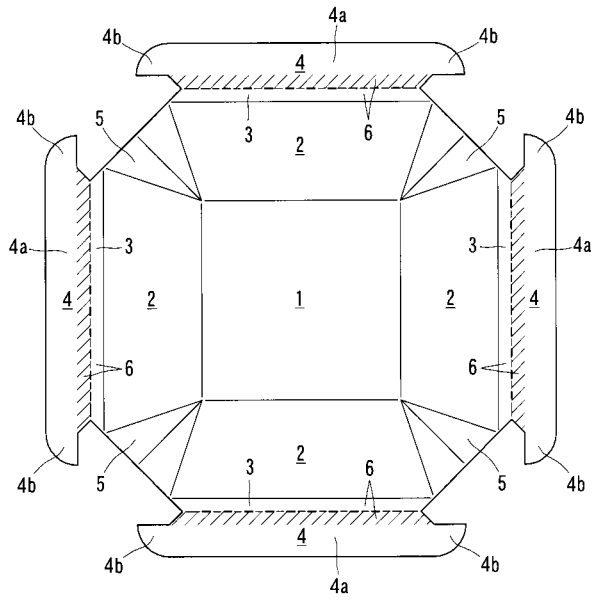
【符号の説明】

【0029】

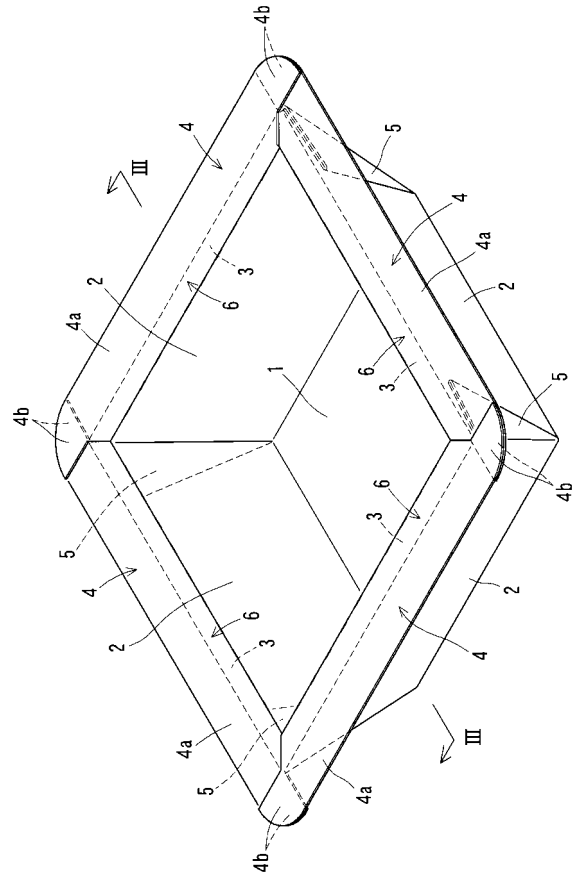
40

- 1 底板
- 2 側板
- 3 内折片
- 4 外折片
- 4 a 外鏝部
- 4 b 延長部
- 5 連結片
- 6 積層内鏝部

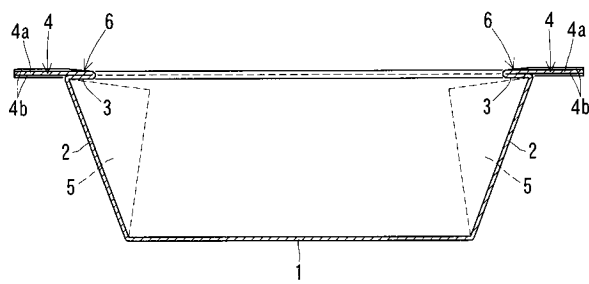
【図 1】



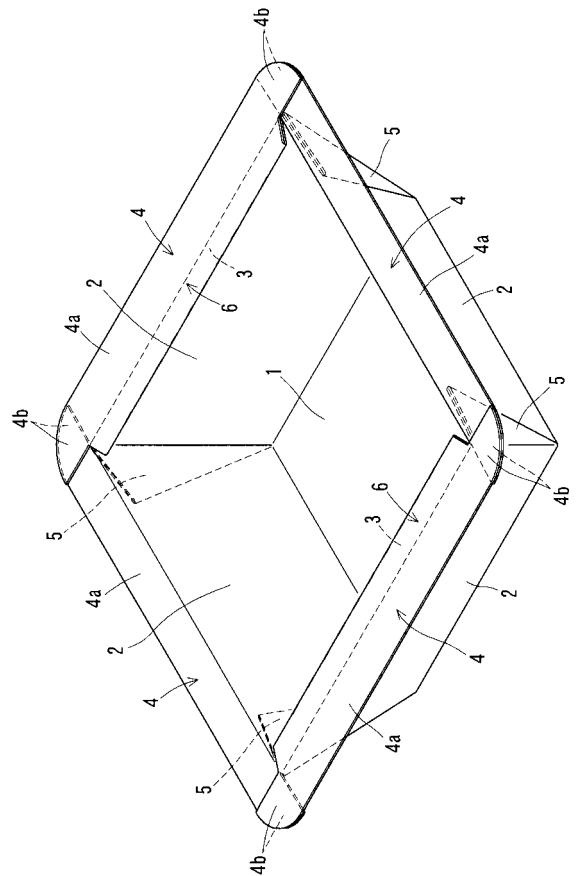
【図 2】



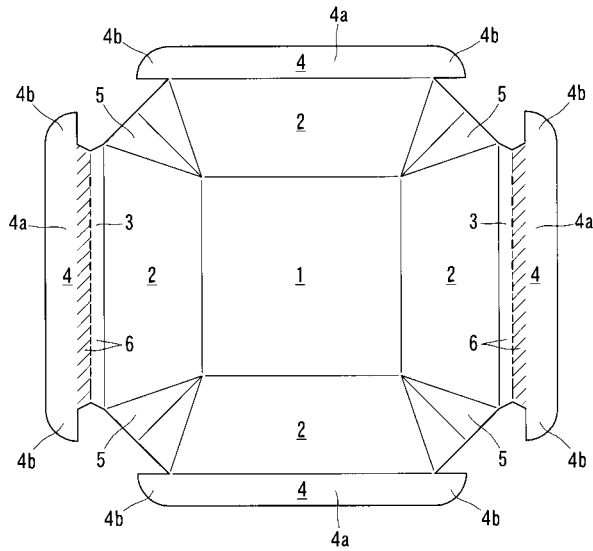
【図 3】



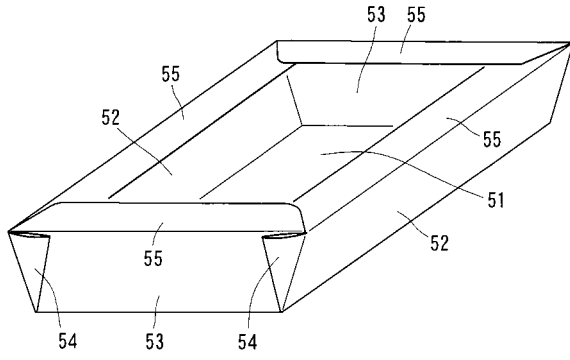
【図 5】



【図 4】



【図 6】



フロントページの続き

(74)代理人 100161746

弁理士 地代 信幸

(74)代理人 100166796

弁理士 岡本 雅至

(72)発明者 池田 耕

大阪府大阪市北区中之島2丁目2番7号 レンゴー株式会社本社事務所内

(72)発明者 藤谷 慶一

大阪府大阪市北区中之島2丁目2番7号 レンゴー株式会社本社事務所内

Fターム(参考) 3E060 AA03 AB15 BC04 CD02 CD12 CE24 DA11 EA02 EA13